

## 二期倫理部会 第4回会合 議事メモ

日 時 2019.9.21 13:30~16:30

### 脱炭素社会を支える経済にするためのアイデアについて

#### (Aさん案)

経済成長と持続可能な社会は両立し得ない。

→ローカル経済の促進

- ・ローカル経済の担い手である中小企業の支援
- ・株式会社化する必要のない中小企業のために一般的な協同組合法の整備
- ・長期的には拡大を目的とした会社の廃止

#### (Bさん案)

努力をした企業・個人に対して負担を軽くする。

- ・政策連動法人税・事業税・固定資産税減税（低負荷、低残業）
- ・政府調達をはじめとした公契約入札・見積合わせに低負荷高ポイント制度導入
- ・環境会計の民間・非公務員型公的セクターへの採用義務化、ひいては官公庁複式簿記導入の暁に環境会計導入義務
- ・低負荷システム並びに自然エネルギー導入個人への給付型消費税控除

### ディスカッション

#### ローカリゼーションの必要性

- ・ローカルが上手くいけば国全体が上手くいくのか、という議論もある。しかし、現在のグローバル経済は石油に依存する輸送システムに頼ったものであるため、今のうちにローカル経済にしておかなければ、社会が立ち行かなくなってしまう。
- ・以前のように地産地消であればローカリゼーションもうまくいく。

#### どう世間を説得するか

- ・説得する相手となるのは営利企業の人々。法整備をしようにも資金を持った石油系の企業の人が妨げるだろう。
- ・ローカル経済のやり方、グローバル経済とのバランスが見えないと、賛同は得難いだろう。

#### ローカル化

- ・地域通貨がローカル経済を促進する。  
→地域通貨の発想はよいが、日本全体の経済から見ればままとのようなものである。
- ・イギリスがEUから離脱したことは一種のローカル化といえるのではないだろうか。

### 脱炭素社会

- ・ローカル経済は方法論に過ぎないのではないか。まず目的である脱炭素社会について考え、そこへの移行に結果としてローカル経済が役立つかもしれない。
- ・制度を変えていくことと、制度作成者の意識を変えること、どちらが環境文明21の目的なのか。
- ・経済を動かすのは人間であるため、人間の価値観を変えることが重要である。
- ・炭素税をかけることで現在の社会システムを前提としながらも経済を変えられるのではないかと。

- ・脱炭素社会にするために経済をどう変えるか、ということクリアにすべき。
- ・こういう炭素税はどうか、という当会から提案するのも一つの手である。

## 最終成果物のイメージについて

### 当面、何をすべきか (Cさん提案)

何故、私たちはこのような持続不可能な経済・社会を形成してしまったのかについて検討する。この生産・消費の在り方を抜け出すことの困難を抉り出す。これらについて部会としてのコンセンサスが得られたら、改めて、脱炭素社会を作るための基本的な原則や視点などについて検討する。

### ディスカッション

#### 自由主義経済の制限

- ・限界を超えた現代においては、自由に対する制限をかけるべきではないか。
- ・基本的人権の自由権は何でもしてよい、という意味のものではない。それゆえ、両立出来る。

#### 環境革命

- ・ソフトランディングという形で移行がうまくいくのだろうか。環境革命のような強い形が社会を変えるには必要かもしれない。
- ・自然はある意味、既に暴力をふるっている。それに対してどうしていくべきか、ということをもっと考えるべき。
- ・これからは従来の原則等が通用しない社会で生きなくてはならない。ただ、人間がこれからの制度を作る以上、以前作った「日本の持続性の知恵」が生きるだろう。それを活かしながら新しい仕組みを作っていく、という発想なのではないか。
- ・革命をおこす主体、リードする人がはっきりしていない。
- ・自然の脅威をもっとしっかりと受け止めるべき。
- ・若者の人権(未来)を奪うな、という視点からの革命にするのはどうか。

#### 若者への発信

- ・マーチに参加した若者は‘気候変動対策をせよ’とは言っているが、具体的に何をせよ、とは言っていない。そこをサポートするのがよいのではないか。
- ・環境に対して問題意識を持っている若者に対して何かできないか。
- ・‘自然が攻めてきている’、ではなく、‘大人が若者の将来を奪っている’というメッセージであるべきではないか。その方がわかりやすい。
- ・エコ動画甲子園等を通じて何かできないか。

#### まとめ

- ・Cさんの提案の
  - 1：なぜ私たちはこのような持続不可能な経済社会を形成したかの検討、
  - 2：この生産・消費の在り方から抜け出すことの困難さを明確にするについて、コンテンツを作って、
  - 3：脱炭素社会を作るための基本的な減速・視点を検討し、実践できるかを同時進行的に詰めていく。